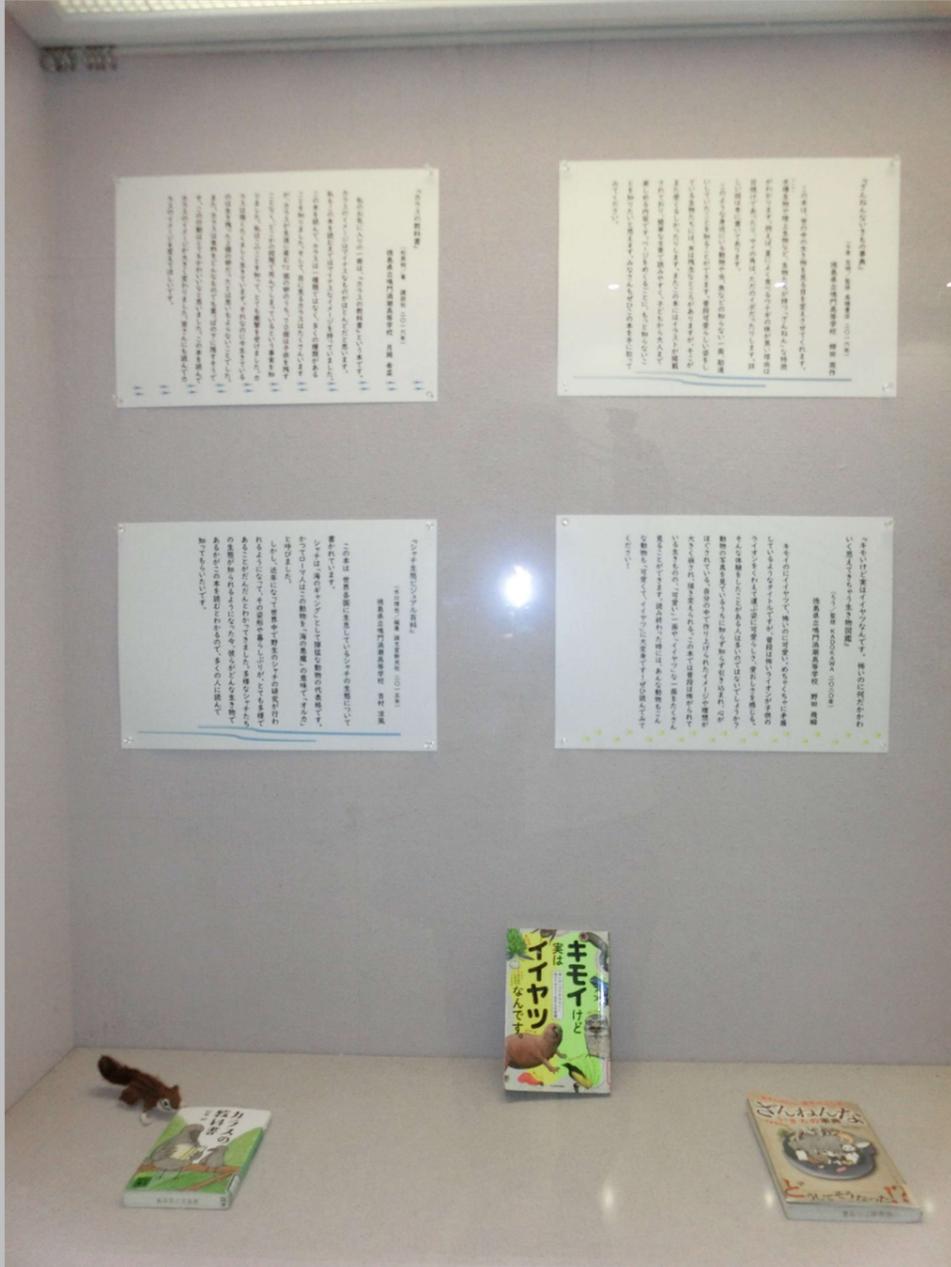


図書館だより

2023年度 第5号



図書委員が選ぶ ふわもこ動物の本

徳島県立図書館にて9月18日まで開催中

徳島県立図書館企画展示「図書委員が選ぶふわもこ動物の本」が現在開催中です。

この企画展示では、県下の高等学校図書委員が応募した「ふわもこ動物の本」の紹介文が本とともに展示されています。

本校からは3人の図書委員が参加、展示されています。下に紹介文を掲載します。

文化の森総合公園にある県立図書館の1階ギャラリーにて、展示期間は9月18日（月）まで。ぜひご覧ください。

企画展示

紹介文

『キモいけど実はイヤツなんです。怖いのに何だかかわいく思えてきちゃう生き物図鑑』

3年 図書委員

ろう 監修/KADOKWA

キモイのにイヤツで、怖いのに可愛い。めちゃくちゃに矛盾しているようなタイトルですが、普段は怖いライオンが子供のライオンをくわえて運ぶ姿に可愛らしさ、愛おしさを感じる。そんな体験をしたことがある人は多いのではないのでしょうか？動物の写真をしているうちに知らず知らず引き込まれ、心がほぐされている。自分の中で作り上げられたイメージや理想が大きく崩され、描き変えられる。この本では普段は怖がられている生きものの、「可愛い」一面や「イヤツ」な一面をたくさん見ることができます。読み終わった時には、あんな動物もこんな動物も「可愛くて、イヤツ」に大変身です！ぜひ読んでみてください！

『カラスの教科書』

3年 図書委員

松原 始 著/講談社

私のお気に入りの一冊は、『カラスの教科書』という本です。カラスのイメージはマイナスなものがほとんどだと思います。私もこの本を読むまではマイナスなイメージを持っていました。この本を読んで、カラスは一種類ではなく、多くの種類があることを知りました。そして、目に見るカラスはたくさんいますが、カラスが生涯に産む72個の卵のうち、70個は子供を残すことなく、どこかの段階で死んでしまっているという事実を知りました。私はこのことを知って、とても衝撃を受けました。カラスは強たくたく生きています。それなのに今生きているのは生き残った2個の卵だったとは思えないことでした。また、カラスは食料はどんなものでも葉っぱの下に隠すそうです。この行動はとてもかわいいなと思いました。この本を読んでカラスのイメージが大きく変わりました。皆さんにも読んでカラスのイメージを変えてほしいです。

『シャチ 生態ビジュアル 世界の海洋に知られざるオルカの素顔を追う』

3年 図書委員

水口 博也 著/誠文堂新光社

この本は 世界各国に生息しているシャチの生態について書かれています。

シャチは「海のギャング」として獰猛な動物の代表格です。かつてローマ人はこの動物を「海の悪魔」の意味で「オルカ」と呼びました。

しかし、近年になって世界中で野生のシャチの研究が行われるようになって、その姿形や暮らしぶりが、とても多様であることがだんだんとわかってきました。多様なシャチたちの生態が知られるようになった今、彼らがどんな生き物であるかがこの本を読むとわかるので、多くの人に読んで知ってもらいたいです。